

お知らせ

世界糖尿病デー

日時) 11/19(土) 9:00~12:00

現在、世界の糖尿病人口は3億8700万人に上り、2035年には約6億人に達するとされています。我が国でも、糖尿病と疑われている人の合計が約2050万人に上り、早急な対策が迫られています。国連は、11月14日を「世界糖尿病デー」に指定し、世界各地で糖尿病の予防、治療、療養を喚起する啓発運動を推進しています。その啓発活動の一環として毎年当院も協賛セミナーを行っています。そして、「今年もやります!世界糖尿病デーイベントinおおぞら病院」今年も市民参加型をモットーに普段は出来ない検査や糖尿病専門医による公開講座などを予定しております。(薬剤部 青木浩二)



理念

私たちは、地域の皆さまに親しまれ、信頼され、満足される病院を目指します



Vol.08 2016.10

ご自由にお持ち帰りください。

患者さんの『したい』を引き出すアクティブなリハビリテーション



おおぞら病院初! 男性職員育児休業取得

育児休業を取得して、妻の普段の苦労を知るとともに家庭あつての仕事であることを改めて実感しました。今後、育休を取得する男性職員が増えていくことを願います。

(リハビリテーション部 川口泰伸)



最近の出来事

フラダンスショー 8/6(土)

4階談話室が患者さんとその家族、スタッフでうめつくされるほどにぎわいました。フラダンス特有の音楽と女性の優雅な動きと子どもたちの元気ハツラツな姿に魅了され、心癒される時間を過ごしました。(看護部 菊地浩美)



高齢者クラブ主催研修会 8/26(金)

乾徳夫会長を代表とする味酒地区高齢者クラブ主催の研修会が開催されました。みんなで学ぼう認知症【この街ですつと暮らせるように】との演題で吉田直彦院長の約1時間の講話がありました。(リハビリテーション部 立花紀子)



講演会 8/30(火)

県立中央病院の鴨川賢二先生による「高次脳機能障害」についての講演と、9月2日には千葉県旭神経内科リハビリテーション病院の旭俊臣先生による「認知症」についての講演がありました。(リハビリテーション部 山崎達郎)



おおぞら病院野球部 8/31(水)

松山市の坊っちゃんスタジアムにて、伊予病院さん、南松山病院さんと野球の大会を行いました。結果は惜しくも準優勝だったので、来年こそは優勝を目指したいと思います。

(リハビリテーション部 高木優一)



地方祭 10/7(金)

ぬけるような青空の中おおぞら病院の駐車場に四角さん、八角さんのお神輿がそろう、祭りのムードは最高潮です。神輿のかきくらべや強烈な迫力がある鉢合わせに皆さん大興奮でした。

(看護部 浅井美樹)



糖尿病教室第7~8期

場所) 1階エントランスホール 時間) 月曜日14:30~15:00
対象) 興味のある方はどなたでも参加して頂けます。(無料)

回	開催日	内容	回	開催日	内容
9	11/7	運動療法	3	12/19	運動療法
10	11/14	フットケア	4	12/26	災害について
11	11/21	薬物療法について	5	1/16	薬物療法について
12	11/28	糖尿病のトピックス	6	1/23	糖尿病のトピックス
1	12/5	HbA1cとコントロールの検査	7	1/30	合併症の検査について
2	12/12	食事の基本	8	2/6	外出について



【電車利用】
●伊予鉄市内電車・城北線 萱町六丁目駅 下車徒歩5分
●伊予鉄郊外電車・高浜線 古町駅 下車徒歩10分
【バス利用】
●伊予鉄バス 勝岡・運転免許センター線 北高西町バス停下車 徒歩3分

リハビリテーションとは、理学療法士や作業療法士、言語聴覚士が介入して、疾病により不自由になった心と体の機能を回復することです。

当院では、入院された患者さんが、日常生活において必要な食事や排泄などの動作やコミュニケーション能力を、より短期間で回復できるように、医師や看護師と連携して、集中したリハビリテーションを提供しています。

リハビリテーション部では、現状に満足することなく、スタッフ教育・研修にも力を注ぎ、より治療効果の高い手技を修得し、患者さんに反映できるよう心がけています。

私たちは患者さんやご家族とのコミュニケーションを大切にしながら、患者さん1人1人の心と体の状態を正しく捉え、回復段階に合った自主性を引き出し、1人でも多くの方に自宅での生活に戻っていただけるよう取り組んで参ります。

(リハビリ主任 永江拓朗)



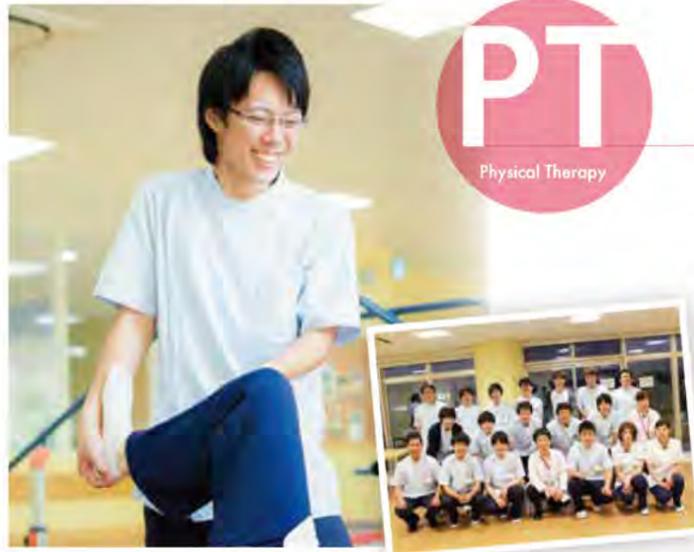
TEL 089-989-6620

愛媛県松山市六軒家町4-20

詳しくはホームページをご覧ください。

おおぞら病院

検索



理学療法士

私たち理学療法士は怪我や病気で体が動きにくくなった人に対して、運動療法などを実施し、自立した日常生活が送れるようリハビリテーションを提供しています。治療や支援の内容は、理学療法士が対象者一人一人について体の状態や家での環境を十分に評価し、それぞれの目標に向けて適切なプログラムを作成しています。また、医師・看護師・相談員など他職種とも連携し、集中したリハビリテーションを提供しています。(稲荷健)

【病院での取り組み】

当院では外来リハビリテーションを実施しており、可能な範囲で退院後も入院リハビリテーションから継続して、社会復帰などを目的としたリハビリテーションを提供させて頂いています。



作業療法士

作業療法士は、日常生活を送る上で必要な心身機能の回復を促し、患者さんが食事、着替え、入浴といった身の回りの動作を主体的に行えるためのサポートを行います。当院では身の回りの動作に加え、退院後の生活に向けてスーパーへ買い物に行く・ご飯を作る・洗濯物を干す等の家事動作を実際に行います。家事動作を確認し、補助的な道具や物品を置く位置の検討、屋外歩行用具等も提案します。患者さん1人ひとりに適した練習を行い、退院後の生活を支援しています。(徳本早苗)

【病院での取り組み】

入院中、安全に過ごすことができるように、食事・着替え・入浴等介助方法の統一を看護師・介護士と連携して行います。また、1日の過ごし方を検討し、自主訓練や院内デイケアへ参加する等起きて過ごす時間を作り、寝て過ごすのではなく自宅生活に近づけた過ごし方ができるよう支援しています。



言語聴覚士

ことばによるコミュニケーションは、相手のことばを見て聴いたことを脳の言語野で理解し、自分の意思を話しことばや書きことばで伝えるサイクルです。その過程のどこかで障害があればコミュニケーションはスムーズに行なえません。私たち言語聴覚士はその原因を評価し、機能訓練やコミュニケーションを補う方法を支援しています。また咀嚼や嚥下は発話と同じ器官を使うため言語聴覚士は専門的に介入していきます。摂食嚥下の評価は早期にVE(嚥下内視鏡検査)やVF(嚥下造影検査)を行ない、どこに問題があるのか、どうしたら安全に口から食べられるかを検討しています。(大本仁美)

【病院での取り組み】

入院患者さんの生活に欠かすことのできないコミュニケーションや摂食嚥下に対して医師や看護師、他のスタッフと連携してリハビリを行なっています。

回復期

リハビリテーション病棟

食事や排泄、整容(着替え、洗面、歯みがき、整髪など)、移動(歩行)、入浴などが日常生活で行う基本的な行動を**日常生活動作(ADL:Activities of daily living)**と言います。リハビリテーションでは元の生活に戻るために運動や動作練習を行います。特にこのADLを行う能力を回復させることはとても重要です。このADLの回復を測る指標に**機能的自立度評価法(FIM:Functional Independence Measure)**があります。FIMは主に介護量測定を目的として、全18項目を介護量に応じて**完全自立～全介助までの7段階**で評価します。そのうち運動項目が13項目、認知項目が5項目で満点は18項目×7点で126点です。今年度より診療報酬改定に伴い、回復期リハビリ病棟のリハビリテーションに対して量(実施時間)だけでなく、質(効果・結果:**アウトカム**)を求められるようになりました。その方法としてFIMの運動項目(13項目×7点=91点)の改善値を、効果実績(FIMアウトカム)*の計算式に当てはめて計算します。厚生労働省が定めた水準は27以上の改善目標になっていますが、当院では退院後の生活を見据えた目標を掲げ、リハビリプログラム、病棟生活を提供していくことで、短時間で高い日常生活自立度に回復できるよう病棟スタッフ全員で協力しています。

■機能的自立度評価法

介助者なし	7:完全自立	時間、安全性を含めて
	6:修正自立	補助具使用
運動項目	5:監視、準備	
	4:最小介助	75%以上自分で行う(25%未満の介助)
	3:中等度介助	50%以上75%未満自分で行う(25%~50%未満の介助)
	2:最大介助	25%以上50%未満自分で行う(50%~75%未満の介助)
	1:全介助	25%未満自分で行う(75%以上の介助)
認知項目	5:監視、準備	90%以上自分で行う(10%未満の介助)
	4:最小介助	75%以上90%未満自分で行う(10~25%未満の介助)
	(その他は運動項目と同様)	



Pneu max (Pneu Weight)

■効果実績(FIMアウトカム)

※水準27

	効果実績
5月	30.57
6月	45.55
7月	45.32
8月	41.05
9月	56.67
平均	43.83

回復期病棟では入院患者1人当たり1日最高3時間のリハビリが行えますが、量(実施時間)はもちろんのこと、質(効果・結果)を求め脳卒中治療ガイドラインでも効果があるとされている促反復療法や免荷式トレッドミルを実施し知識・技術の向上に努めています。病棟では午前午後集団での立ち上がり練習などを実施し、一日の活動量を増やしています。その結果5月から9月の経過を見てもFIMアウトカム27は達成しており、平均でも43以上と高い効果実績を実現しています。今後も私たちはスタッフ一丸となり地域ナンバーワンの効果実績(FIMアウトカム)達成を目指していきます。

(リハビリテーション部 岡崎浩治・山崎達郎)

新入職員紹介



看護部 ケアワーカー
やまもとゆみ
山本 由美
血液型 AB型
趣味 読書、お菓子作り

少しでも早く仕事に慣れたいと思います。一生懸命、頑張りたいと思います。



看護部 ケアワーカー
ほしかつみ
星 勝美
血液型 O型
趣味 読書、ショッピング

1つ1つ仕事を覚えて頑張りたいと思います。



3階病棟 看護師
しらいしなつみ
白石 菜津美
血液型 B型
趣味 旅行、ドライブ

まだまだ分からないことも多いですが、少しでも早く仕事に慣れ、よりよい形で退院できるよう看護を行えるように頑張りたいと思います。



4階病棟 看護師
にしたにえりか
西谷 絵理香
血液型 O型
趣味 映画鑑賞、ショッピング

色々分からないことも多いですが、1日でも早く仕事に慣れるように頑張ります。宜しくお願いします。